クリタマバチの天敵を活用した防除

クリタマバチは、中国からの侵入害虫で、寄生を受けた芽は、4月上・中旬の発芽期から異常肥大し、虫えい（虫コブ）をつくり新梢の発育を止める。そのため、着毬数が減少し、果実も小さくなって収量が減少する。

1990～1996年に有力天敵であるチュウゴクオナガコバチを愛媛県内各地に放飼した結果、被害が減少していたが、近年、クリタマバチの被害芽が増加傾向にあることから、天敵を活用した防除のポイントを紹介する。

被害芽率とチュウゴクオナガコバチ雌成虫の羽化数の推移

県内のクリタマバチの**被害芽率**は、1990～1996年の天敵導入によって52.0%（1996年）から4.6%（2005年）にまで減少していたが、**近年は増加傾向にある**。一方、天敵の**チュウゴクオナガコバチ雌成虫の羽化個体数**（100ゴール（虫えい）当たり）は、2002年に17.6頭まで増加したが、2008年には1.4頭にまで減少、その後も**低密度で推移**している。

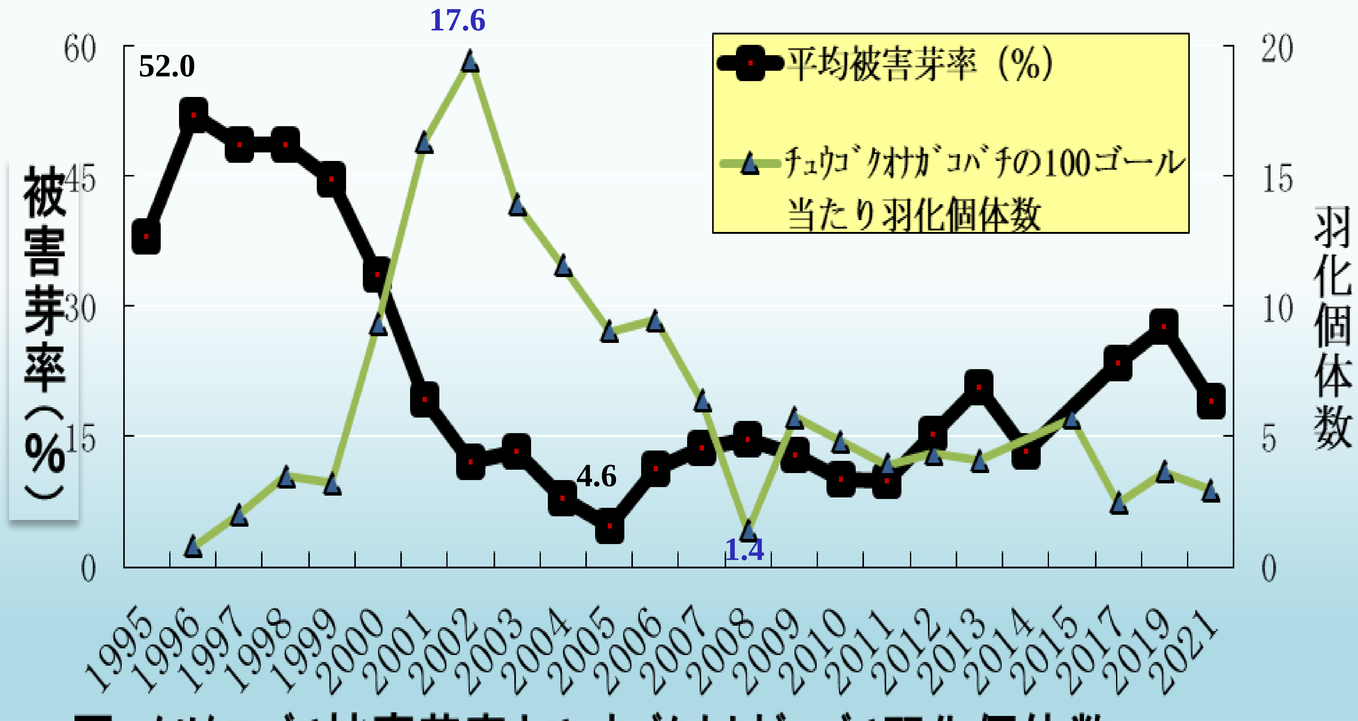

図　クリタマバチ被害芽率とチュウゴクオナガコバチ羽化個体数の推移（10園地平均）

クリタマバチの虫えい

チュウゴクオナガコバチ雌成虫

防除のポイント

1. 天敵寄生蜂は、3月中旬から4月にかけて虫えいから羽化するが、クリタマバチは、6月～7月にかけて虫えいから成虫が出てくる。このため、剪定枝は**4月中旬まで園内に残し**、天敵の脱出を待って、5月中旬に適切に処分する。

2. 一般に樹勢が弱く伸びの悪い枝に寄生が多い傾向にあるため、**適正な肥培管理**と樹に日光が十分当たるよう**縮間伐を行う。**

3. 薬剤防除　（6月下旬～7月上旬）
   - ・アグロスリン水和剤（1,000倍）
   - ・アディオン乳剤（1,000倍）　があるが

天敵保護のため散布は極力避ける。